

令和2年度 3学期 始業式 校長講話

一人一人が、「やるべきこと」を誠実に

まずは、年の初めの挨拶をいたしましょう。明けましておめでとうございます。
3学期から新しい試みとして、体育館と教室をつないで始業式を行っています。
1年生には、体育館に来てもらっています。教室のスクリーンに1年生の姿も映ります。
しっかりとお話を聞く姿を2年生以上に見てもらいましょう。

今日は、「お祭りのお酒」という昔から語り継がれている話をもとに、3学期にがんばってほしいことを伝えたいと思います。この話は、サッカーの日本代表チームの監督であった岡田監督が、選手たちに向けて話したということでも有名です。

フランスのある村で、毎年お祭りが行われていました。そのお祭りでは、毎年、お酒が入った樽を用意して、みなでお酒を飲んでお祝いをするようになっていました。樽とは、こういうものです。(絵を提示)

ところが、その年は、お天気がよくなく、作物がとれず、お祭りの酒を用意することができませんでした。そこで村人は、相談し、「みんなが家から少しずつ酒を持ちよって、樽の中に入れていくことにしよう。」と決めました。

数日がたち、樽がいっぱいのお酒を集めることができ、無事に祭りが行われることになりました。そして、いつものように、樽から酒を注ぎ、皆で乾杯を行いました。するとどうしたことでしょう、全く酒の味がしないのです。それは、まるで水のようなでした。みんなが酒を入れたはずなのに、どうして水になってしまっていたのでしょうか。

しばらくして隅にいた貧しい村人が立ち上がってこう言いました。「みなさんに告白します。実は、みんなが酒を注ぎ入れるだろうから、わしが一瓶くらい水を入れたって、誰にも分らないだろう…そう思ったんです。」するとすぐに、別の村人が立ち上がりました。「実はおれも同じことを・・・」その後、次々に、「わしもです。」「おれもです」と言いだし、とうとう村人全員が同じことをしていたことが分かったのです。

日本のチームが勝っていたのに、最後の20分で3点も入れられて負けてしまった試合の後、岡田監督が選手に向けてこの話をしました。「自分一人くらいいいだろう、自分一人くらい力を抜いてもわからないだろうという選手が多いときは、大抵負ける」ということを岡田監督は伝えたかったのです。

これは、サッカー選手に限った話ではありません。自分一人くらいやらなくてもいいだろう、自分一人くらいルールをまもらなくても大丈夫だろうという人の集団だったら、その学級はどうなってしまうか想像ができますね。

よりよい学級をつくりあげるためには、一人ひとりが「正しいこと」「やるべきことを」を誠実に行っていくことが必要なのです。今の学級の仲間と過ごすのも55日です。別れがつかなくなるくらい最高の学級をつれるかどうかは、皆さん一人一人にかかっています。前にも言いました。「誰か」がではなく、「自分」から行動を起こしていきましょう。

2学期の終わりに、皆さんが病院などで働く方々へあてたメッセージを書きました。私も送る前に読ませていただきました。その中からいくつか紹介します。

「私は、最初コロナがはやり始めたときは、こわいなと思っていました。でも、時間がたつにつれてそのような思いがなくなってコロナウィルスのことを気にしないで生活するようになって、どんどん密を守れなくなっていってしまいました。でもニュースで医療従事者の方々が医療の最前線に立って頑張ってくださっていることを知り、わたしもかからないように気を付けようという気持ちや、何か力になれることはないかと考えるようになっていきました。」

今読んだ中にあった、「何か力になれること」…その答えになることが、他の子が書いたメッセージの中にありました。

「私たちがこうやって学校で勉強できるのも、コロナと闘い、日本を支えてくださっている医療関係者の方々ののおかげです。私は、皆さんの役に少しでも役に立てるように、水が冷たくなってきたけれど手をきちんと洗ったり、友達とできるだけ離れて楽しく話したり遊んだりしています。私たちも頑張るのでみなさんもお体に気を付けてお仕事をしてください。」

大晦日もお正月も家族と過ごせず、病院で働きづくめの方もいらっしゃいました。今頃、そのような方々の手元にみんなが書いたカードが届き、みなさんの優しい言葉に元気をもらっていることと思います。

感染者がとても増えてきています。自分一人だけなら、手を洗わなくたって…という気持ちをみんながもってしまったら、どうなるか、先ほどの「お祭りのお酒」の話を思い出してください。「自分一人さえよければ」ではなく、「自分一人であっても」、やるべきことはやるという気持ちを強くもって、3学期も健康と安全に気を付けて過ごしていきましょう。